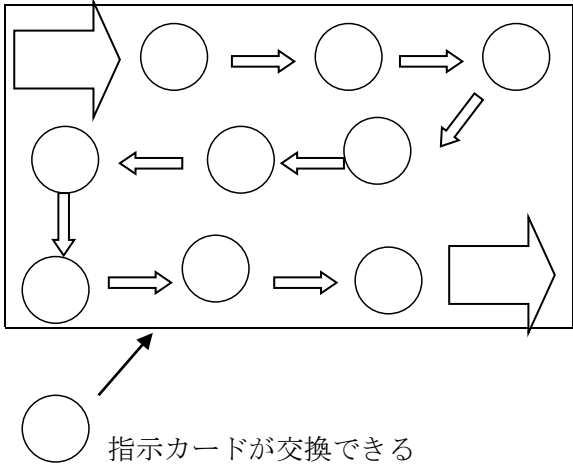
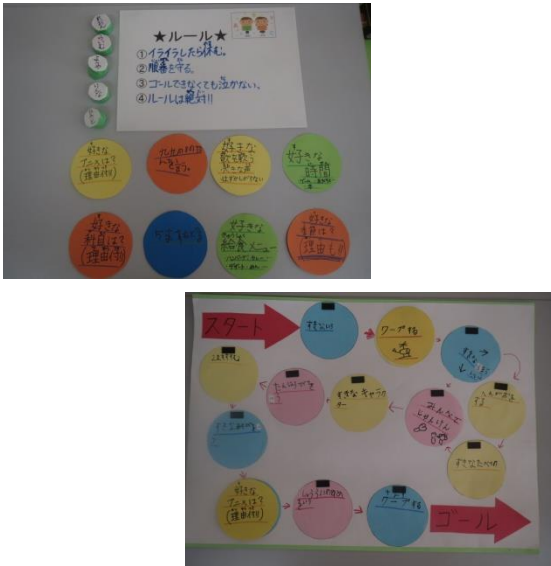


自作教具の活用事例

【作品名】 なかよしすごろく	【学校名】 日立市立水木小学校
【活用できる領域・教科等】 自立活動（人間関係の形成・コミュニケーション）	【制作者名】 木村 敦子
【制作の意図】 自分の気持ちを話すことやルールを守ってゲームをすることが苦手な児童でも、さいころを振ってコマを進める活動を楽しみながら、友達との関わり方を学べるようにする。	【使用方法】 2～5人で行う。同学年であったり、異学年であったり、小集団での活動とする。 さいころで出た目の数だけ、自分のコマを進め止まった所の指示を読む。そして、全員がその指示の質問に答えたり、動作をしたりする。ゴールできた人から終了となる。
【制作上の工夫】 すごろくの指示カードは、自分たちで考え、話し合いながら作る。また、ペットボトルキャップに名前を書いて、自分専用のコマを作ることができる。 楽しく活動するために、ルールが必要だということに気が付き、ルールを考えてカードをつくることもできる。	【見取り図】 
【写真】 	【使用効果と応用発展】 ゲームとして活動することで、話し方や聞き方の練習となり、少しずつコミュニケーションがとれるようになる。 小集団の活動を通し、ルールを守って遊ぶことの楽しさを学ぶことができる。 自分たちですごろくを作るということで、大切に扱うことができる。 指示カードは発達段階に応じて、変更できるようにしている。また、友達と話し合っ指示カードを交換してすごろくを作ることで、コミュニケーション能力を高める経験ともなる。
【材料・材質・部品等】 ・すごろく台紙の画用紙 ・コマ（ペットボトルキャップ） ・指示カード（磁石付き） ・さいころ	